

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400106		
法人名	株式会社愛誠会		
事業所名	はなまるホーム光風台		
所在地	千葉県市原市光風台4-377		
自己評価作成日	平成23年12月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はなまるホーム光風台は(株)アイセイ薬局が親会社でもあり、グループホームで不足しがちな、医療面の問題も親会社の適切な指導の下対応しています。医療と介護の連携の確保や、みどり豊かな立地条件を活かしたレクリエーション活動を行なう事で、豊かで安心した暮らしが出来るよう頑張ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からまだ3年であるが、教育カリキュラムが充実しており、若い職員は研修により自信を持って入居者のケアにあたっている。外出の機会を増やすために、新たな企画を検討しているところである。イベント時には、元板前の職員が魚の解体ショーを披露して入居者に喜ばれた。管理者は職員一人ひとりの力を引出すこと、コミュニケーションを取ることに努めている。家族からの介護相談にはていねいに対応し、昨年からはじめた運営推進会議も充実してきた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を全職員に周知して頂く様に努力しています。	法人の理念(社是)と事業所の理念は短く、易しい言葉で表現されている。昨年、理念の理解不足の指摘を受けて、法人の研修で理念をとりあげ、事業所の朝礼で唱和するなど、職員の意識統一に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りに参加したり、防災訓練に参加したり、交流を深めるように努力しています。	近隣の公園で開催される夏祭りや地域の防災訓練に参加したり、職員の子供が通う小学校の運動会にも参加している。自治会会合には管理者自ら参加している。地元の入居者が多く、入居相談を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症でお困りの方の入居相談を通じて、認知症介護のアドバイスをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は運営推進会議が実施されなかったという現状がありましたが、本年度は既に4回実施し、年間6回(2ヶ月に一度)の開催を目指しサービス向上に力をいれています。	本年度初めて運営推進会議を開始し、4回行った。開催日を夏祭りや敬老会に合わせたり、内容を工夫し、軌道に乗ってきた。新年度は会議を通じて家族意見を反映することや地域関係者の参加に努めることに目標を定めている。	新しい施設だけに、地域との関係は未だ十分でない部分がある。新年度は家族の意見の反映や、地域からの参加など内容の充実に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	はなまる新聞を作成し、高齢者支援課に持参し、はなまるホーム取り組みを紹介しています。	市の高齢者支援課、生活福祉課とは運営資料やホーム発行の新聞を渡したり、情報を得たりして関係はできている。本年度からグループホーム連絡会に加盟し、同業の事業者とも交流できるようになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、研修を行なう事で、全職員が正しく理解出来るように取り組んでいます。	身体拘束ゼロへの取組を宣言し、研修では具体的な事例をあげながら、職員の理解と意識統一をはかっている。困難事例には家族、職員と話し合い、最終的に管理者が判断している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し学び、虐待防止に取り組んでいます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を2名の利用者の方が活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は必ず読み合わせを行い、不安や疑問に対し説明し、納得された上で入居して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、運営状況を説明し、意見要望をお聞きしています。	殆どの家族とは月一回以上話をしている。毎日のように来る家族もいるが、訪問の少ない家族にはホームから連絡を取り、意見を聞き、反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や各ユニット会議、全体職員会議を通して、職員の意見、提案を聞き、施設運営に反映している。	日々の申し送り、毎月のユニット会議、全体職員会議を通じて意見を聞いているが、別に個人面談も行っている。出された意見は反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスやスタッフの評価表を下に、給与を決定し職員が目標をもって働けるように給与を設定しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて内部研修の充実化を図り、全職員が研修を受けられるようになり、働きながらスキルの向上が出来るようになりました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修などで、他の事業所と交流を持ったスタッフを通し、情報を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた際に、ご本人様から要望をお聞きし、安心を確保する為の関係作りをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談を受けた際に、ご家族様から要望をお聞きし、安心を確保する為の関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントを通して、ニーズを把握し、支援方法を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を畳んだり、食器を拭いて頂いたり、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間、外泊、外出、電話の受付時間等、家族の絆が途切れないようにし、共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様から制限の要望がない限り、上記と同様にします。	友人との交流は最近減っているが、これまでの関係が継続できるように家族の協力も得て、自宅での外泊、ドライブ、外食など、馴染みの場所に出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂では気のあった方同士が、近くの席となるように配慮したり、レクリエーション活動を行い、交流を深め、孤立しないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談、支援が出来るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを通し、希望や意向を反映したケアプランの作成に努めています。	職員は日々の生活の会話の中で、一人ひとりの思いや意向を把握するように努力している。思いを表わせない人については、家族などから情報を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時、初回アセスメントを通し、その把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを通し把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやモニタリングの中で浮き彫りとなった課題をケアカンファレンスにて現状に即したケアプラン作成に努めています。	入居者や家族の意向を踏まえて、連絡ノートに記録される職員の意見を反映しながら、介護計画を作成している。変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の毎日の記録、業務報告、申し送り等で情報を共有して、ケアプランの見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問看護ステーションとの医療連携にて心身の状態を把握し、安全で豊かな生活が出来るように情報交換することで支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携病院の往診がありますが、なじみの医療機関に継続通院を希望される場合は、出来る限り支援して行きます。	かかりつけ医への通院は家族か職員が同行している。協力医の月2回の往診は全員が受診し、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護ステーションの訪問時に利用者の状態を報告し、適切な看護が受けられるように支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院のソーシャルワーカーと相談して、状況を把握し早期退院が出来るように関係を築いていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期におけるケアについて説明し、同意書を書いて頂いています。	入居時に重度化した場合の考え方を説明し、同意書を取っている。協力病院との連携が取れており、段階ごとに家族等とも確認していくことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメントの研修を行い、初期対応の知識を身につけています。今後より実践的な訓練も行なって行きたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設職員による、定期的な消防訓練を実施しています。また地域の避難訓練に参加し、地域とも協力関係を築いていきます。	年2回の消防訓練(1回は夜間想定)が行われている。建物の構造は平屋建てで、居室からも外に出られるような構造になっている。	地域の避難訓練と事業所の避難訓練を連動させるなど、地域住民との協力関係を構築することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症について研修し、理解する事で、病 気により不穏状態となった方に対しても、落 ち着いたケアが出来るように実践していま す。	人格を尊重しながら、入居者一人ひとりの個 性に沿った対応に努めている。また、トイレ 誘導の際も、プライバシーに配慮した声かけ を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	その日に着る衣類を選んでいただいたり、 食事のメニューを一緒に考えて頂く事で希 望や自己決定が出来るように支援していま す。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添えるように配慮してい ます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	出来る限りその人らしい、おしゃれが出来 るように支援すると共に、ちぐはぐな恰好 とならないように、さりげなく支援していま す。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな食べ物を把握し、その日 の食事を一緒に考えたり、出来る方には負 担とならない程度に、お手伝いをして頂い ています。	職員は毎日交代でメニューを考え、調理をし ている。入居者の希望を入れたり、近隣から 寄せられる新鮮な食材を取り入れて作って いる。時には外食に出かけるなど、食事を楽 しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個別の健康チェック表で、水分量、食事量 を記入し必要な水分量が把握に努めてい ます。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、口腔ケアを実施すると共に、訪問 歯科による口腔内のケアも行なっていま す。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るかぎりトイレで排泄が出来るように、支援しています。	排泄パターンを把握しており、タイミングを見て誘導しているが、それだけに頼らず、入居者の様子を見逃さないようにして声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を食べて頂いたり、水分量を多くとっていただくことなるべく自然排便が出来るように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、毎日にも入浴をして頂けませんが、現在は、順番で入浴するのが現状です。	最低でも週2回は入浴してもらえるようにしている。入浴拒否の人については、家族の協力を得たり、タイミングを見計らって入浴を勧めたりと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調を把握し、休息を促したり、要望がある場合は、休んで等、生活習慣を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アイセイ薬局がグループ会社であり、勉強会を実施すると共に、日ごろから助言を受ける事で適正な服薬管理ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望に沿った楽しみごと(買物・外食等)を行なう事で、気分転換などの支援を行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホーム周辺を散歩しています。また外出レクも積極的に行なっています。	天気の良い日は毎日、一対一で職員が付いて、交代で外気に触れるようにしている。外出の機会を増やすために、初詣・花見・外食等の外出企画をに立て、積極的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いに関しては事務所保管となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の制約がない限り、自由にやり取りが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあったお花を置くなどホームの中でも季節感が味わえるように配慮しています。	共用空間は明るく清潔である。一部畳敷きの部分があり、寛げる雰囲気である。季節を感じながら、居心地よく過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内は基本的に自由に行動が出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り昔なじみのものご用意していただくように配慮しています。	クローゼットが設置されており、スッキリしている。ホームとしては、馴染みの品を持ってきてもらうように話しており、人によってはいろいろ置いて、自分らしい居室をつくっている。部屋からすぐに外に出られ、災害時に避難しやすい作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーである事と居室に名前を貼って迷わないように工夫しています。		